

平成23年4月15日

平成23年度病虫害発生予報第1号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
水稲共通	ヒメトビウンカ(技術情報第1号)	-	少
	縞葉枯病(技術情報第1号)	-	やや少
麦 類	うどんこ病	少	少
	赤かび病	-	並
ばれいしょ	疫病	やや少	やや少
	アブラムシ類(防除情報第1号)	やや多	やや多
	ジャガイモガ	並	並
トマト	黄化葉巻病	やや少	やや少
	灰色かび病	やや少	やや少
	コナジラミ類	やや少	やや少
いちご (本圃)	うどんこ病	やや少	やや少
	灰色かび病	やや多	やや多
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	少	少
かんきつ	そうか病	-	やや多
	かいよう病	-	並
	ミカンハダニ	やや少	やや少
なし	赤星病	並	並
	黒星病	並	並
	アブラムシ類	並	並
果樹共通	カメムシ類	やや少	やや少
茶	カンザワハダニ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	少	やや少

【発生予報】

本文の( )内は平年値

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成23年4月15日付病虫害発生予察技術情報第1号による。

麦 類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の巡回調査（二条大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（二条大麦・裸麦：発生を認めない、小麦：発病茎率1.0%、発生圃場率12.5%）。
- イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（二条大麦：発生を認めない、裸麦：0.0%、小麦：0.6%）。

## 2. 赤かび病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 出穂期以降、曇天・降雨が続き気温が20～27と比較的高くなると多発するので今後の気象の推移に注意し防除を徹底する。
- イ 防除薬剤は予防効果主体で発生を認めてからの防除では効果が劣るので予防散布に努める。
- ウ 小麦、裸麦では開花最盛期（出穂期の概ね7日後）とその7～10日後の2回、薬剤散布する。
- エ 二条大麦では穂揃い期の10日後の薬剤散布が効果が高いので、防除時期を逃さないようにする。
- オ 麦種によって同一薬剤の使用基準が異なるので、使用にあたっては収穫前日数に十分注意する。

## ばれいしょ

### 1. 疫病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

- 4月上旬の巡回調査（24筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率1.0%）。

### 2. アブラムシ類

平成23年4月15日付病害虫発生予察防除情報第1号による。

### 3. ジャガイモガ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

- 4月上旬の巡回調査（24筆）の結果、発生を認めなかった（被害株率0.1%、発生圃場率1.2%）。

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.0%(過去6ヵ年1.2%)、発生圃場率は8.3%(同25.0%)であった。

## 2. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.3%(0.7%)、発生圃場率は8.3%(34.4%)であった。

## 3. コナジラミ類

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.7%(2.3%)、発生圃場率は25.0%(31.3%)であった。

# いちご

## 1. うどんこ病

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病を認めなかった(発病株率0.4%、発生圃場率9.8%、発病果率0.2%)。

## 2. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.6%(0.1%)、発生圃場率は25.9%(13.7%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 多湿にならないよう圃場の排水に留意し、換気をこまめに行う。
- イ 発病した果実や枯死葉は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外へ持ち出して適切に処分する。
- ウ 薬剤耐性菌の発達防止のため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

## 3. アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.2%(0.5%)、発生圃場率は11.1%(7.2%)であった。

## 4. ハダニ類

### (1) 予報内容

発生程度 少

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.3%(11.0%)、発生圃場率は18.5%(44.9%)であった。

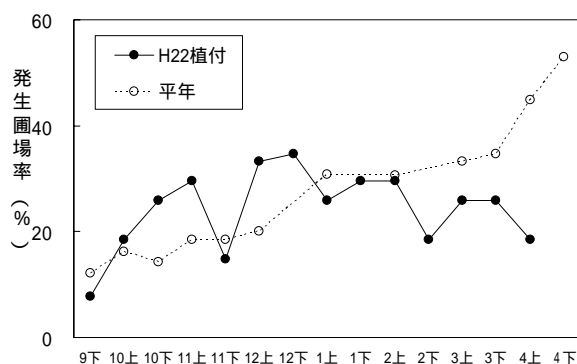


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

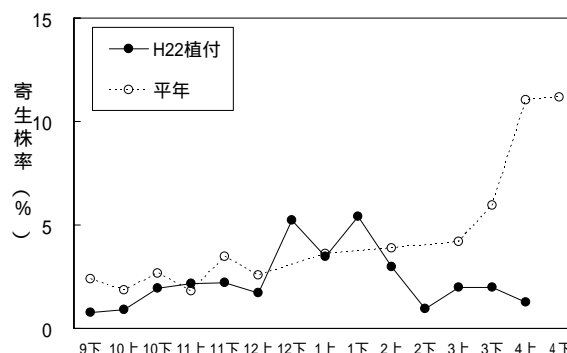


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

## かんきつ

### 1. そうか病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発病葉率は0.0% (0.0%)、発生圃場率は15.4% (1.9%)であった。

### 2. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発病葉率は0.2% (0.3%)、発生圃場率は17.9% (18.3%)であった。

### 3. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は0.4% (1.9%)、発生圃場率は15.4% (22.4%)であった。

## なし

### 1. 赤星病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率3.1%)。

### 2. 黒星病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.8%)。

### 3. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.8%(0.5%)、発生圃場率は8.3%(28.1%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年より少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

## 果樹共通

### 1. カメムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

1~2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は0.12頭/m<sup>2</sup>(0.51頭/m<sup>2</sup>)と平年より少なかった。

## 茶

### 1. カンザワハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.7%(1.4%)、発生圃場率は31.3%(29.7%)であった。

### 2. チャノキイロアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、たたき落とし虫数(5回×4カ所当たり)は13.1頭(5.6頭)、発生圃場率は81.3%(61.0%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多い圃場では一番茶摘採後に防除を行う。

イ 感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

### 3. クワシロカイガラムシ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生株率は1.2%(10.9%)、発生圃場率は56.3%(60.2%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年より少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

